



船橋市 指定管理者 医療法人社団輝生会

船橋市リハビリセンター だより

2024. 7

VOL.42

発行日 / 2024年 7月 15日 ●発行 船橋市リハビリセンター ●発行責任者 センター長 梅津 博道
TEL (047) 468-2001 FAX (047) 468-2059 URL <http://www.funabashi-reha.com/>



第 38 回地区勉強会
きららホール

地域での役割をしっかりと果たしていきます



副センター長 江尻 和貴

こんにちは。副センター長の江尻です。2024年度が始まって、もう3か月が過ぎました。今年度は梅津センター長を迎え、新しい体制でスタートを切りました。そして今年、診療報酬、介護報酬、障害福祉サービスのトリプル改訂の年でもあります。今回の改訂では、介護サービス事業所と病院などの施設との連携や、口腔・栄養・リハビリテーションの一体的な提供が求められています。私たちはこの制度改正の意図を理解し、利用者の皆さまにより良いサービスを提供するために努めて参ります。

当センターは船橋市において「**地域リハビリテーション支援拠点**」として位置付けられており、市内の関係団体の皆さまと協力して、障がいがあっても生き生きと暮らし続けられる地域づくりを目指しています。「リハビリセンターだより」でもお伝えしていますが、地区勉強会、介護職勉強会、研究大会などを開催しています。

特に、昨年度から再開された対面方式の地区勉強会(事例検討会)は、参加者から大変好評をいただいています。コロナ禍ではできなかった対面での交流は、事業所や職種を超えたスタッフ間の理解を深め、信頼関係を強化し、迅速かつ適切な対応を可能にします。今年度も地域の医療機関や介護・福祉施設の方が知識を得るだけでなく、連携を深められる場を作って参ります。

リハビリセンター内部の取り組みについてもご紹介します。当センターでは各事業を高い質で実施するため、以下のような委員会を設置しています。

共通研修委員会では、法人の理念を浸透させ、チームアプローチを身につけるための共通研修をスタッフの年次ごとに実施しています。倫理委員会では、利用者の権利を守り、高い倫理基準に基づいたサービス提供を推進しています。医療安全委員会では、利用者の安全を最優先に考え、事故防止策を講じています。感染対策委員会では、感染症予防に万全を期し、安心して利用できる環境を整えています。サービス向上委員会では、利用者からのフィードバックを基に、サービスの質を向上させる取り組みを行っています。地域連携推進委員会では、地域の医療機関や福祉施設等との連携を深め、地域全体で支えるリハビリテーション体制の構築に努めています。衛生委員会では、職場の環境改善、職員の健康診断、予防接種などを行い、快適で安全な施設環境を整備しています。これらの委員会は、当センタースタッフが、関係職種の皆さまとともに、利用者に対して真摯に向き合い、最適なリハビリテーションおよびケアを提供する助けとなっています。

船橋市リハビリセンターは地域の皆さまと共に歩み、船橋における地域リハビリテーションの推進に取り組んでいきます。今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。

輝生会の
基本理念

■ 「人間の尊厳」の保持

■ 「地域リハビリテーション」の推進

■ 「情報」の開示

■ 「主体性・自己決定権」の尊重

■ 「ノーマライゼーション」の実現

パーキンソン病とは、中脳にある黒質のドーパミン神経細胞が変性・消失し、脳内のドーパミンが減少することで様々な症状がおこる進行性の疾患です。1000人に1人～1.8人の割合で、65歳以上では100人に約1人の割合です。

4大症状



安静時振戦



筋固縮



無動・寡動



姿勢反射障害

★代表的な症状：歩こうとすると足がすくむ「すくみ足」、小刻みで歩く「小刻み歩行」、歩きだすと前のめりに止まらなくなる「突進様歩行」、動作がゆっくりになる「動作緩慢」、表情が乏しくなる「仮面様顔貌」など
 その他：認知機能の低下、幻視、幻覚、妄想、睡眠障害、自律神経障害（便秘、頻尿、発汗異常、起立性低血圧）、嚥下機能の低下など様々な症状を伴います。

重症度分類

特定疾患医療費補助制度の対象範囲

ホーエン・ヤールの重症度分類		生活機能障害度
重症度	症状	
I度	・体の1側に症状がでる	【I度】 日常生活、通院に介助を要さない
II度	・体の両側に症状がでる	【II度】 日常生活、通院に介助を要する
III度	・姿勢反射障害がみられ、活動が制限される	
IV度	・なんとか歩行はできるが、日常生活に介助が必要	【III度】 日常生活に全面的な介助を要し、歩行・起立が不能
V度	・車いすかほぼ寝たきり	

リハビリでの支援について

- ・ストレッチ：姿勢反射障害や筋固縮などにより、体が硬くなりやすいため**全身のストレッチ指導**を行います。
- ・筋力強化、バランス練習、歩行練習：移動能力の維持目的や運動症状の影響に対し、**筋力増強運動や歩行練習**を行います。
- ・環境調整：転倒なく過ごせる環境にするために**福祉用具活用や設置などのアドバイス**をします。
- ・介助指導：また、視覚（目印を跨ぐ）やリズム（声掛け）などの外部刺激があると歩行障害に対し有用であるため、そういった情報などの**介助指導や生活指導**などを行います。
- ・嚥下機能の低下や発話の不明瞭さが出てくるため、**嚥下機能訓練や環境調整**などを行います。

社会資源の紹介

- ・介護保険制度
- ・医療費助成制度（指定難病）
- ・一般社団法人 全国パーキンソン病友の会

ワンポイントアドバイス：ストレッチの紹介

★それぞれ痛みの無い範囲でゆっくりと行いましょう。伸ばしたところで10秒以上とめるとより効果的です！



片脚を抱える（左右）



体を捻る（左右）



片壁に両手をつけ背伸び

外来・通所・訪問リハビリを希望される方は、
 船橋市リハビリセンター（047-468-2001）までご相談ください。

訪問看護事業

食中毒とは

訪問看護だより



食中毒を起こすもととなる細菌やウイルス、有毒な物質がついた食べ物を食べることによって、**下痢や腹痛、発熱、吐き気**などの症状が出る病気の事です。

(症状が出るまでに、食後数時間～数日かかる事があります。)

細菌による食中毒は、気温が高く細菌が育ちやすい6月～9月にかかる人が多いです。(サルモネラ属菌・腸炎ビブリオ・黄色ブドウ球菌・腸管出血性大腸菌・・・等)
ウイルスによる食中毒は、冬に流行します。(ノロウイルス・・・等)



※食中毒になってしまったら・・・?

●すぐに病院へ行き、医師の診察を受けましょう。

★免疫力の弱い小さなお子様や高齢者、慢性的な疾患をお持ちの方はすぐに病院へ行く事をお勧めします。

受診の目安

- 激しい嘔吐/下痢 (10回/日以上)
- 水分が摂れない事による脱水症状
- 血便 (大便に血が混じっている)
- 呼吸困難、めまい、意識障害



●上記の様な状況がある場合には、命の危険につながりかねない為、すぐに受診をしましょう。

注意点

●確実な水分補給をする事

最も重症化しやすい症状として脱水症状があります。ゆっくり少しずつでよいので、電解質を含む経口補水液を摂取する事が望ましいです。

●休息をしっかり摂る事

しっかり安静にしていれば自然に治る事も多い病気です。無理せずリラックスできる服装で安静にしましょう。



●消化しやすい食べ物を食べる事

症状が落ち着いてきたら、無理のない範囲で少しずつ食事を摂るようにしましょう。おかゆ・バナナ・りんご・野菜スープなど胃腸への負担が少ない物から食べ始めましょう。

●整腸剤などの薬を飲む

症状を緩和する為には、整腸剤・吐き気止めがあります。

下痢止めの使用はお勧めしません。下痢止めを使用する事で、お腹の中の腸が運動しづらくなってしまい、原因となる菌やウイルスを外に出す活動が遅れてしまいます。



食中毒予防の原則

細菌性食中毒予防の3原則

- 細菌を食べ物に 「つけない」
- 食べ物に付着した細菌を 「増やさない」
- 食べ物や調理器具に付着した細菌を 「やっつける」

ウイルス性食中毒予防の4原則

- ウイルスを調理場内に 「持ち込まない」
- 食べ物や調理器具にウイルスを 「ひろげない」
- 食べ物にウイルスを 「つけない」
- 付着してしまったウイルスを加熱して 「やっつける」

訪問看護を必要とされる場合、訪問看護ステーション：所長 横山恭子 または ソーシャルワーカーまでお気軽にお電話 (047-773-0319) ください。

地域リハビリ 拠点事業

～活動報告～

「地域リハビリテーション拠点事業」では、関係機関と協力し様々な活動を行っています。

第38回地区勉強会

2024年6月13日(木) きららホール

参加者 118名

今回のテーマは、「**口腔・栄養・リハビリ 三位一体の基本を学び、連携に活かそう**」です。

まず、グループワークの前に「口腔・栄養・リハビリのトリプルパワー」のミニレクチャーをうけ、その後、準備した事例をもとに11のグループに別れ、各職種でできること、他職種に聞きたいこと、お願いしたいこと等、意見交換をしました。

ここでは、ミニレクチャーの内容の要約と、グループワークについてまとめてみます。

ミニレクチャー



口腔・栄養・リハビリの トリプルパワー

講師
船橋市立リハビリテーション病院
関口 和哉 氏

< 三位一体的取り組みの連携推進 >

診療報酬・介護報酬改定について

2023年6月に内閣府が発表した「骨太方針2023」では、賃上げや投資、子育てといった経済運営に加え、リハビリテーション、栄養管理、口腔管理の連携推進が盛り込まれました。この新たな視点から、今年度の診療報酬・介護報酬改定では大きく①～⑦の変化がありました。

- ①急性期病院でのリハ栄養口腔連携体制加算の新設。
- ②地域包括医療病棟では入院料が新設され、セラピスト2名以上と専任常勤管理栄養士1名以上の配置が要件化。
- ③回復期リハ病棟では、GLIM基準による栄養評価の要件化。
- ④歯科医療においては、回復期・周術期の患者に対する口腔機能管理の推進のための管理料の新設。
- ⑤通所リハビリテーション等では、リハビリテーションマネジメント加算(ハ)が新設され、リハに合わせて口腔・栄養のアセスメントとの実施と情報を関係者間で一体的に共有することが要件。
- ⑥訪問系サービス・短期入所系サービスにおいても、利用者の歯科情報を歯科医やケアマネに情報提供した場合の口腔連携強化加算が新設。
- ⑦介護保険施設から低栄養の入所者が退所する場合にも、退所先の医療機関に栄養管理の情報を提供する退所時栄養情報連携加算が新設される、など。

今回の改定を、それぞれの関係者が主旨をよく理解して活用することが重要と思います。

< 口腔管理の重要性 >

オーラルフレイルとは、老化に伴う口腔の状態変化や健康への関心低下、心身の予備能力低下が原因で、食べる機能障害や心身の機能低下につながる現象です。これにより、身体的フレイルやサルコペニア、要介護認定、総死亡リスクが増加します。**日本歯科医師会も定期的な歯科受診の重要性を訴えています。**

< 栄養管理の重要性 >

リハビリテーションの効果を最大化するためには、適切な栄養管理が不可欠です。低栄養状態では筋力増強が難しく、リハビリの効果が得られません。

GLIM基準は低栄養を評価する際に役立ちます。

低栄養の診断基準：GLIM criteria

現 症			病 因	
意図しない体重減少 <input type="checkbox"/> > 5% : 過去6ヶ月以内 or <input type="checkbox"/> > 10% : 過去6ヶ月以上	低BMI (kg/m ²) <input type="checkbox"/> < 20 : 70歳未満 <input type="checkbox"/> < 22 : 70歳以上 [アジア] <input type="checkbox"/> < 18.5 : 70歳未満 <input type="checkbox"/> < 20 : 70歳以上	筋肉量減少 □ 筋肉量減少 : 身体組成測定 (DXA, BIA, CT, MRI など) で計測 □ 筋肉量減少 : 人種による補正 (上腕周囲長、下腿周囲長等でも可)	食料摂取量減少/消化吸収低下 <input type="checkbox"/> 食事摂取量 ≤ 50% (エネルギー必要量の) : 1週間以上 or <input type="checkbox"/> 食事摂取量の低下 : 2週間以上持続 or <input type="checkbox"/> 食事の消化吸収障害 : 慢性的な消化器症状	疾患による負荷/炎症の既往 <input type="checkbox"/> 急性疾患や外傷による炎症 or <input type="checkbox"/> 慢性疾患による炎症
上記3項目の1つ以上に該当			and	
			上記2項目の1つ以上に該当	

診 断

低 栄 養

< 摂食嚥下障害への対応 >

摂食嚥下障害は、様々な病態を引き金に発生し、多職種でのチーム医療が必要です。当院では、嚥下機能の精査として嚥下造影と嚥下内視鏡検査を実施しています。嚥下障害の重症度を共有するためのツールとしては、摂食嚥下障害臨床的重症度分類 (dysphagia severity scale: DSS) が有用であり、これを用いて誤嚥リスクを管理しています。嚥下障害が疑われる場合には、すみやかに専門家へ紹介することが必要ですので、うまく利用していただけると幸いです。

< 運動について >

障害に対する、リハビリは機能訓練として行なわれますが、一般的に運動は不可欠であり、認知症の予防・改善、睡眠障害や精神障害の改善にも効果があります。また、運動は老化の進行を予防するともいわれており、健康を維持するための基本です。

一まとめ

口腔管理、栄養管理、リハビリテーションの三位一体的連携は、患者の全身の健康を維持・向上させるために重要です。これからも医療・介護の現場で、口腔、栄養、リハビリの重要性を訴え続けることが求められます。

グループワーク報告

今回の勉強会では、**診療報酬・介護報酬改定**で、「口腔・栄養・リハビリ」の三位一体の取り組みの推進がもたられたことから、どのように現場で関わればよいのかを学ぶために、まずミニレクチャーで改定内容などを解説

してもらったことになりました。それから、グループワークにむけて、今まで以上に口腔管理、栄養管理、リハビリを意識した事例を作成し、三位一体の議論の資料になるように準備しました。

実際のグループワークの進行に際しては、今までと違う二つのことを行いました。

一つは、話し合いをスムーズに進行するために、**世話人がファシリテーター**となる事、そしてもう一つは、地区勉強会では、事前に検討する事例を参加者にお配りして

いますが、今回は、事例を読むだけでなく、その事例の「口腔・栄養・リハビリ」について、強みと弱み、自職種でできること、他職種に聞きたいこと、について考え、記載した上でご参加いただきました。**(様式1の記入)**。

(様式1)については、自分で持ち帰ることができるようにしておきましたので、グループワークの進行とともに、他のメンバーの発言を加筆する場面が多くみられました。

参加者からは、・地区勉強会には10数回参加していますが、初めて事前課題が提示されました。難しく、全部は書ききれませんでした。当日、様々な方の意見を聞き、記入していくことで、シートが埋まっていきました。多職種で関わる必要性を強く感じました。

・初めて緊張しましたが、グループの皆さんが優しくアットホームな雰囲気を作ってくれたため、発言しやすかったです。多職種で関わることの大切さを知りましたので、今後の業務に活かしたいです。等の貴重なご意見・感想をいただきました。



第38回 船橋市地域リハ研究会地区勉強会 事例情報

【ケース情報】

利用者氏名: A 氏	性別: 男性	住所: 船橋市内	年齢: 82 歳
【傷病名】 右大腿骨頸部骨折 【既往歴】 腰椎圧迫骨折 喘息 肝硬変 腎硬化症			
【現症の経過および治療経過】			
R6.4.10 外出先で段差に躓き転倒。右大腿骨頸部骨折で入院し手術施行。			
R6.4.25 回復期病院転院			
R6.6.1 家庭訪問実施			
R6.6.20 退院予定			
【生活歴】			
関東地方出身。高校で数学の教師をされ定年まで勤務していた。			
元々内気な性格であり、他者と積極的に交流を持つタイプではなく、近所付き合いはない。			
30歳で結婚。おしどり夫婦で休日は常に妻と行動を共にしていた。たばことお酒がお好きで夫婦ともに酒豪であった。			
運動はお好きではないが、妻とハイキングに行く機会が多く自宅に写真を多く飾っている。妻とは70歳の時に死別。			

(様式1)

	アセスメント	自職種でできること
口腔	【強み】	
	【弱み】	
栄養	【強み】	
	【弱み】	
リハ 運動	【強み】	
	【弱み】	
【他職種に聞きたいこと、お聞きたいこと】		【自職種として新たに出来る取り組み】

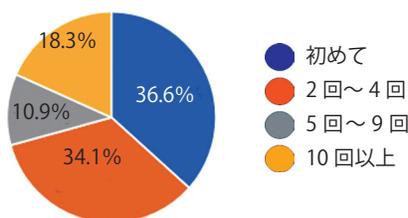
チーム全体でどのような連携が図られると良いかとまとめて下さい。

職種：

【口腔】
【栄養】
【リハ】

アンケート 結果

船橋市地域リハ活動（研究大会・勉強会等）に参加されるのは何回目ですか？ 82件の回答

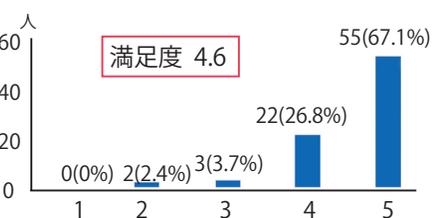


・今回の勉強会に参加された方の参加回数は、初めての方が30名(36.6%)、2～4回28名(34.1%)、5～9回9名(10.9%)、10回以上15名(18.3%)でした。

・勉強会の満足度は5評価：55名、4評価：22名、3評価：3名、2評価：2名でした。

・満足度の理由として、口腔や栄養についてさまざまな職種の視点が知れて、とても勉強になった。複数の専門職が関わることの重要性を改めて感じた。という意見がありました。

この勉強会全体の満足度はどのくらいですか？ 82件の回答



地域リハビリ拠点事業のホームページは船橋市リハビリセンター HP 内にあります。

このQRコードで直接アクセスできます。

活動状況の閲覧、勉強会の申込書などが格納されていますので、ブックマーク登録してご活用ください。

地域リハビリ拠点事業
ホームページQR



リハビリ事業 (介護予防)

介護予防を図る目的で

市内に住む 65 歳以上の身体機能の低下がみられる方を対象に、実施している事業が「リハビリ事業」です。



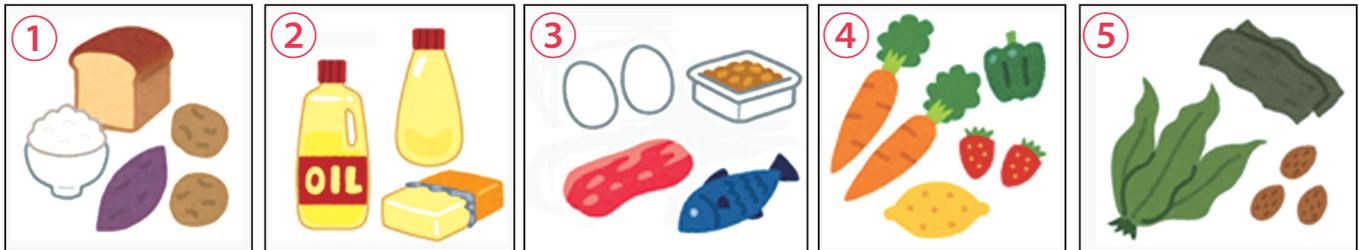
「リハビリ事業」では、パワーリハビリ教室、パワーリハビリフォローアップ、プールリハビリを行っています。利用料金はそれぞれ 350 円です。飯山満駅・薬園台駅・東船橋駅から巡回バスも運行しています。

運動と、栄養でサルコペニアを予防しましょう

サルコペニアとは、加齢に伴い筋量が低下し身体機能が衰えた状態を言います。最近体力と体重が落ちたという方は「運動不足」と「低栄養状態」の可能性がります。サルコペニアになると抗重力筋（腹筋・背筋・殿筋・大腿四頭筋・ハムストリングスなど）の筋力低下が起こるため、だんだん立ち上がりや歩行動作などが困難になってきます。予防・改善には運動・栄養摂取をそれぞれ単体で行うより、両立して行うことが最も効果があります。毎日の食事ですっかり栄養を摂り、適切な運動でサルコペニアを予防しましょう。



バランス良く摂れてますか？ 5 大栄養素について



- ①**糖質**・②**脂質**：どちらも主にエネルギー源です。糖質は 1g あたり 4 キロカロリーでごはん、パン、いも類に多く含まれます。身体を動かしたり脳を働かすエネルギー源として作用します。脂質は 1g あたり 9 キロカロリーで糖質同様エネルギー源となる他、細胞膜や神経組織、ホルモンを作る材料となります。
- ③**タンパク質**：主に身体を作る栄養素で 1g あたり 4 キロカロリーです。筋肉、内蔵、皮膚、血液などを作る材料となる他、エネルギー源にもなります。肉、魚、大豆類に多く含まれます。
- ④**ビタミン**・⑤**ミネラル**：身体の調子を整える栄養素です。エネルギー源にはなりませんが糖質、脂質、タンパク質の合成や分解を助ける働きを持つので健康維持に欠かせない栄養素です。ビタミンは果物や野菜類に多く含まれます。ミネラルは無機質ともいい骨や血液のもとになる栄養素で海藻類、ナッツ類等に多く含まれます。

運動の前後はしっかり栄養を摂りましょう

サルコペニアの予防には様々な食品からバランスよく栄養を摂りつつ、特に不足しがちなタンパク質を積極的に摂取しましょう。1 日の推奨摂取量は体重 1kg あたり 1.2 ~ 1.5g です。体重 50kg の場合「 $50 \times 1.2 = 60$ 」で 60g のタンパク質を摂取する必要があります。

又、運動の前には十分な糖質を摂る事も重要です。空腹な状態での運動は集中力が落ちてケガの原因となり最悪な場合、低血糖になってしまい目まいや吐き気、意識消失を引き起こす原因となります。



<利用の手続き>

パワーリハビリ教室：年に 4 回、3 カ月おきに船橋市の広報にて公募（2/1・5/1・8/1・11/1 の号にて掲載）

プールリハビリ：随時受け付けています。

リハビリ事業専用回線：047-400-6227（平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00）

委員会より

サービス向上委員会

私たちの取り組み 「接遇と私」

輝生会では「よりよい接遇をめざして」を、合い言葉にして、接遇ルールブック『私たちの約束』をもとに日々の業務に取り組んでいます。当センターでは、2024年度接遇目標として、

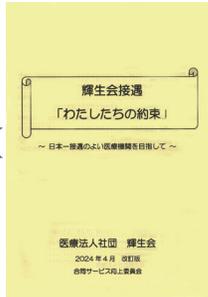
「丁寧な話し方をしよう」

「優しさが伝わる振る舞いをしよう」

をあげています。



12月には、優れた実践を日ごろから心掛けているスタッフを、接遇に優れたスタッフとして表彰しています。



今回は、接遇に優れたスタッフとして表彰された理学療法士の稲田愛実さんの「“共感”、“褒め上手”を心がけています。」を紹介しします。



私は、“共感”、“褒め上手”を心がけています。共感することで利用者の思いを受け取り、褒めることで利用者やご家族を認め、少しでも背中を押せたらと思っています。私と関わることで安心したり、前向きになれたりするようなスタッフを目指し、日々皆様と関わっています。

地域連携推進委員会

ケアマネジャー交流会

当センターでは、ケアマネジャーさんとの関わりを深める目的でケアマネジャー交流会を毎年2回開催して



おります。今回、6月21日（金）のケアマネジャー交流会の参加者は、ケアマネジャーさん16名(11事業所)・センタースタッフ22名でした。

まず、梅津博道センター長による「脳卒中について知ろう！！」というミニ

レクチャーでは、介護が必要になった原因の上位に脳卒中、認知症が上がっている事、脳卒中の予防は認知症の予防にもつながるという話。また、発症後の早期のリハビリの必要性和自宅に戻られた後の日常生活の為に機能回復、維持の為にリハビリが必要であるとの話



がありました。

その後、尾下真志マネージャーからは、介護報酬改定に伴うリハビリセンターの今後の取り組みとしてリハビリマネジメントを強化し、リハビリ会議を全利用者様へ行うことの運用変更点の案内がありました。

意見交換会では、今回は雑談会と称して、普段から電話でのやり取りの多いセンタースタッフとケアマネジャーさんとがざっくばらんに日頃の悩みや疑問点などを直接顔をみてお話できる時間をもうける試みをしました。アンケートでは、「リハビリセンターさんだけでなく、他のケアマネさんともざっくばらんにお話ができました」との言葉を頂きました。

2024年度2回目の交流会を秋に開催する予定です。

新入・異動スタッフに質問

- ①センターの魅力
- ②専門職として心がけていること
- ③今後の抱負

スタッフ紹介

PT: 理学療法士



(渡部 貴幸 PT)

- ① 身体能力に応じた運動を考え、運動習慣を身に付けられることが魅力的です。
- ② 散歩が好き。「こんな場所があったんだ」など小さな発見をしながら楽しんでます。健康に良いのでお勧めです。
- ③ 挨拶です。この仕事は人と人が繋がりを持つ仕事で、笑顔で挨拶することで安心感と信頼関係を築き、共に目標に向かっていきたいと思ひます。



(鈴木 裕美子 PT)

- ① 生活期として在宅生活をより良く過ごしていただくためにリハビリ等をしていることです
- ② 音楽鑑賞です。吹奏楽部だったこともあり、クラシックやポップス、ロックなど様々な曲を聴くことが習慣になっています。
- ③ 利用者さまが自宅でよりよく生活するために何が必要か考えて、多くの方と関わっていきたいと思ひます。これからよろしくお願ひいたします。

地域の施設紹介

院長 紹介



根本 昌幸 先生

メ ッ セ ー ジ

私の得意とする整形外科には膝や腰の関節の痛みを訴えて来院します。湿布などの保存療法でも効果がない場合、人工関節置換術が有効です。心身は問題がないのに、膝が痛くて生活が制限されるのは、実にもったいないと思います。私はこの手術を三千膝行い、初期に手術をされた方は術後15年を超える方もいらっしゃいます。是非膝の痛みでお悩みの方は受診下さい。

北習志野花輪病院

〒274-0063 千葉県船橋市習志野台 2-71-10
TEL:047-462-2112



北習志野花輪病院は147床（急性期44床、地域包括ケア病床12床、療養病床91床）の病院で、50年以上にわたり船橋市で医療を提供しています。同院には人工透析センターと人工関節脊椎センターがあり、特に力を入れています。人工透析センターでは、長年のデータと最新機器を使い、外来および入院治療を行っています。人工関節脊椎センターでは関節や腰の痛みを治療し、特に膝の人工関節置換術において高い実績があり、国内だけでなく、中国やアメリカからも患者さんが訪れます。医療機器も充実しており、CT装置や最新のMRI、心臓診断に用いるカラードップラーエコー、大腸内視鏡検査に変わるCTコロノグラフィなど、充実した医療機器を備えています。

さらに、順天堂大学本院・浦安病院などから派遣医師を迎え、専門的な診療を提供しています。地域の高齢者支援にも力を入れており、「船橋市習志野台地域包括支援センター」や「ケアプラン花輪」と連携し、訪問診療やリハビリテーションも行っています。



利用者さんの声から

練習カリキュラムがあると良い

松本 幸雄 さん

2020年4月13日夜中2～3時頃、右腕・右足が動かないので、妻に連絡、救急車で病院に搬送、緊急的にカテーテルで血栓摘除術を受け、回復期リハビリを行い退院。右上肢は廃用手といわれ、機能回復目的に自費リハ施設でのリハビリを受けていましたが、自宅近くでリハビリを受けたいとのことで、2021年10月からリハビリセンターでの通所リハビリ週2回を開始しました。

要介護1の認定で、歩行は杖なしでも歩けましたが、スピードが出ず、右上肢はわずかな動きが出る程度でした。自分なりの目標として、右上肢の機能回復訓練が80%、右下肢の機能訓練は20%とし、歩行は1時間連続で歩ける事を目指しました。右上肢では、訓練の成

果もあり、靴の紐が結べる。爪切りの時間が短くなった。散水機の巻き取りが出来る様になり、最近ではゴルフの打ちっぱなし、陶芸にも行っています。仕事も復職し、これからも、さらに回復して、両手で顔を洗う、右手で文字を書く、年1～2回の旅行に行く。ゴルフで本コースを回ることを目指しています。

センターに希望することは、いろいろな人の経験と機能アップに向けての実例の紹介や多くのデータに基づく機能アップの練習カリキュラム（2～5年）があると良いと思います。今後とも、よろしく願い致します。



船橋市リハビリセンター 案内図



【編集後記】巻頭言は江尻副センター長の地域リハビリ活動推進への思いとセンターで取り組んでいることの報告、クリニック事業では、神経変性疾患のパーキンソン病を取り上げました。訪問看護事業では、夏の時期の食中毒への対策など注意点まとめてもらいました。地域リハ拠点事業は、地区勉強会でのミニレクチャーの内容やグループワークでの試みなどの報告、リハビリ事業では、サルコペニアについての予防の学び、委員会からはケアマネ交流会の報告、施設紹介は地域に根差している北習志野花輪病院を紹介しました。利用者さんの声からは機能回復に向けてのカリキュラムがあるとよいとの声をいただきました。（石原茂樹）

船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町 2-519-3 TEL (047) 468-2001 FAX (047) 468-2059

この冊子の画像及び文章の無断引用することを禁止します。